

ヨナのおしるし

(ヨナ書1:1-16)

一、ヨナについて

1節に「アミタイの子ヨナに次のような主のことばがあった。」と書かれています。〈主〉とは、すべてのものをおつくりになった、おひとりなる神のお名前です。まことの神はおひとりですから名前は必要がないのですが、神は「わたしはある」という名前を知らされませんでした。その「わたしはある」という名前が〈主〉という言葉で、聖書に書かれています。〈アミタイの子ヨナ〉はどんな人だったのでしょうか。預言者でした。預言者は、神が考えておられること、願っておられることを、神の霊の働きによって受け取り、それを周りの人々に語る人です。では、ヨナはいつ頃の人だったのでしょうか。イエスがお生まれになる八百年ぐらい前の人でした。旧約聖書の列王記第二14章25節にヨナのことが出てきます。〈彼〔北王国の主は、レボ・ハマテからアラバの海までイスラエルの領土を回復した。それは、イスラエルの神、主が、そのしもべ、ガテ・ヘフェルの出の預言者アミタイの子ヨナを通して仰せられたことばのとおりであった。〉と書かれています。旧約聖書の中で、ヨナ書以外にヨナのことが

書かれているのは、ここだけです。ヨナの出身地ガト・ヘフェルは、北王国にありました。

二、神がヨナに語られた

神がヨナに語られました。2節です。〈立つて、あの大きな町ニネベに行き、これに向かつて叫べ。彼らの悪がわたしの前に上つて来たからだ。〉と。その頃、アッシリアという国が急に強くなってきました。しかもアッシリア人はとても残酷なことを行いました。そこで周りの国の人々は、いつかアッシリア人が攻めてきて、自分たちにも残酷なことを行い、自分たちを殺すのではないだろうかと、不安で不安でたまりませんでした。そのような時に、預言者であったヨナは神の言葉を聞きました。〈立つて、あの大きな町ニネベに行き、これに向かつて叫べ。彼らの悪がわたしの前に上つて来たからだ。〉と。ニネベは、アッシリアを守る神々が祭られ、王が住んでいた、たいへんに大きな都でした。しかしヨナが聞いた神の言葉は、それだけではありませんでした。〈3・4b「もう四十日すると、ニネベは滅ぼされる」と聞きました。さらに、ヨナはまことの神がどのような方であるかを知っていました。〈4・2e情け深くあわれみ深い神であり、怒るのにおそく、恵み豊かであり、わざわざを思い直される〉であると。

三、ヨナの決断

そこで、ヨナは考えました。「神はおつしやつた。『立つて、あの大きな町ニネベに行き、これに向かつて叫べ。彼らの悪がわたしの前に上つて来たからだ。』と。『もう四十日すると、ニネベは滅ぼされる』ともおつしやつている。しかし神は『情け深くあわれみ深い神であり、怒るのにおそく、恵み豊かであり、わざわざを思い直される』方である。ならば、私がニネベに行つて神のことを語り、万が一でもニネベの人々が悔い改めてしまったら、神はニネベの人たちを憐れまれるだろう。私がニネベに行かなければ、ニネベの都は滅びる。そうすれば、アッシリアの軍隊がイスラエルに攻めてくることもなくなる」と。こうして、〈1・3aしかしヨナは、主の御顔を避けてタルシシュへのがれようとし、立つて、ヨツパに下りました。タルシシュは今日のスペインにあった港のようです。タルシシュはニネベと反対の方角です。〈1・3b彼は、タルシシュ行きの船を見つけ、船賃を払つてそれに乗り、主の御顔を避けて、みなといつしよにタルシシュへ行こうとし、ました。ここまではすべてが順調に行きました。ヨナは思ったはずです。「私がしていることは神の言葉に逆らっている。しかしこれでいいのだ。あと四十日したら、ニネベの都は滅びる。そしてイス

ラエルは助かる」と。

四、ヨナをふりかえつて

ヨナは神の言葉に逆らいました。すると、最初は順調に進んでいるように思われましたが、そのために海は大荒れになり、自分と一緒に船に乗っていた人たちの命まで危なくなりました。ここまで追い詰められて、ついに白状しました。自分が神に逆らい、逃げてきたことを。ヨナには、嵐が起きているのは自分が神の言葉を斥けているからだ、分かっていた。ですが、悔い改めません。なぜなら、自分がニネベに行かなければ、ニネベは四十日後に滅び、イスラエルは助かると考えたからです。ヨナは、自分を海に放り込むよう、水夫たちに提案します。しかし、水夫たちはヨナが言うとおりにはいませんでした。ですが、どうしても嵐が止まないので、ついにヨナを海に放り込みました。その後のことは多くの方がご存じのように、神は巨大な魚を備えられ、ヨナを呑み込ませられました。ヨナは三日三晩魚の腹の中にいて、考え、祈り、悔い改め、感謝の祈りを献げました。魚に呑み込まれて三日三晩生き続けることは奇跡ですが、それはヨナに考えさせる期間となりました。すなわち、神の言葉に従う決意を固め、自分の意思で悔い改めの決断をする時となりました。